

ウズベキスタン共和国タシュケントの公文書館 および図書館の利用について

浅村卓生

現在私は2003年11月から2005年3月までの予定で、タシュケントのウズベキスタン共和国科学アカデミー言語学文学研究所に留学している。研究テーマはウズベク文章語の成立とその社会的影響であり、主に1920-30年代の言語政策と文章語の普及過程について調査を進めているところである。ここではタシュケントにおける公文書館および主要な図書館の現在の利用状況について、留学中の経験を踏まえて簡単にご紹介したい。

公文書館

タシュケントの国立中央公文書館は地下鉄チランザール線のヨシュリク駅とハムザ駅のちょうど中間あたりという、やや交通の便の悪い場所にある。ピンク色で4階建ての少し古い建物なので、近づけばすぐそれとわかるだろう。この公文書を外国人も利用できるようになったのは独立後のことである。ただ、利用するために提出が必要とされるものは制度の改変に伴って何度か変わっている。現在外国人はウズベキスタン外務省の許可を得ることが必要となっており、公文書館に所属機関等からの紹介状を直接提出するだけでは利用できない。過去には日本から特殊な外交ルートを通じて許可を申請した例もあるようだが、多くの場合そのようにはいかないだろう。私の場合は日本大使館を通じて外務省に紹介状を送付するよう公文書館側から指示された。しかし現地の所属先から外務省に申請したという人もおり、時期によって対応がまちまちである可能性がある。入館証がなくても1階玄関の呼び出し電話で用件を伝えると館長または副館長と面会できるので、どのような手順が必要か直接尋ねてみるのが情報に振り回されなくて一番効率的かもしれない。日本大使館の援助を仰ぐことになった場合、公的な文書作成に関わることなので忙しい時期には断られることもある。履歴書および研究テーマや所属先、身分について詳細に記した紹介状の下書きを用意していくといったことは最低限必要だろう。外務省に申請を出してから許可が出るまで数週間かかるので、短期滞在の人には少し辛い制度である。

外務省から許可が出ると公文書館に通知され、それが確認されて初めて入館証（1年間有効）が交付されて3階の閲覧室に入室できることになる。閲覧室の係員のおばさんたちは非常に親切であり、自分の研究テーマを告げていろいろ相談することができる。公文書館の概要をはじめ閲覧室の使い方や各種フォンドについては、最近書かれた島田志津夫氏による紹介があるのでここでは割愛したい（「ウズベキスタンの公文書館事情」『イスラム世界』61号2003年9月）。島田氏は利用しなかったというが、3階にはテーマ別にファイルを整理したカタログ室がある。ここを使うには館長の許可を得る必要があるが、申請すれば比較的簡単に許可を出してもらえるはずである。目的のものがどのようなテーマに分類されているか推測できる場合は重宝するだろう。それ以外にも必要なファイルがフォンド一覧ではなかなか見つけにくい場合に、必要なフォンドの見当を付けるために使うこともできる。ファイルのコピーは1枚111スム（1ドル＝約1060スム）で、少数なら当日してもらえるが翌日になることが多い。裏面には1枚ずつフォンド・ファイル・ページの番号を記入してもらえる。

各州にそれぞれある州公文書館についても、外国人は外務省からの許可が必要である。プハラ州の公文書館に関しては所属先から外務省宛に許可申請書を出せばよく、大使館を通す必要はなかった。他州については許可申請をしていないのはっきりわからないが、おそらく同じではないかと思われる。

図書館

ウズベキスタンの図書館では原則として書籍を図書館外に貸し出すことはしないので、見つけたものはコピーするか館内の閲覧室で利用しなければならない。また、各図書館の利用には所属機関からの紹介状がそれぞれ必要となる（ナヴォイ図書館では紹介状は必要なく、パスポートの提示と写真2枚だけでよい）。日本の研究機関からの紹介状の場合、こちらの人がわかる言語で書いてある必要があるだろう。紹介状の宛名は館長の姓名・父称を明記するのが普通であるが、わからなければ単に館長宛としてもかまわない。また、紹介者の署名だけでなく捺印もある方がよい。

タシュケントで最も大きくて蔵書量も豊富なのは、アカデミー中央図書館とナヴォイ図書館である。それぞれ1994年以降の書籍および新聞雑誌は情報が電子化されていて、コンピュータ端末で検索が可能となっている。また書籍以外にマイクロフィルム等も所蔵されている。

アカデミー中央図書館の2階は大きなカタログ室になっており、向かって右が著者・書名検索（алфавитный）、左がテーマ別検索（систематический）用になっている。テーマの分類に関しては、テーマそのものを調べるカタログを使って検索することが

できる。どこの図書館でもウズベク語のものとロシア語のものは別々のカタログである。この図書館のウズベク語カタログは表記別となっており、1920年代後半から30年代末にかけてのラテン文字表記のものは別のカタログになるので注意したい（それ以前のアラビア文字表記のものもあるが、数は非常に少ない）。また学術論文要旨（автореферат）は一般書と同じ扱いをされている。さらに、数は少ないがカラカルパク語、カザク語、トルクメン語など各共和国語別のカタログもある。全体としていつも人が少なく落ち着いた雰囲気である。

ナヴォイ図書館は以前ムスタキリク広場内にあったが、現在はウズベキスタンホテル裏通りの本館と地下鉄ムスタキリク駅近くの別館に移転している（技術系の本用にまた別館があるので全部で三棟あることになる）。利用証の発行は本館で申請を受け付けている。蔵書数は約一千万冊で、カタログ室は本館の1階右側部分にある。ここではアカデミー中央図書館のカタログと違って、ウズベク語カタログが表記別の分類ではなくひとつのカタログとなっており、学術論文要旨専用のカタログが別個に設置されている。またテーマ検索カタログは各テーマの枠内で本が年代順に配列されていて使いやすい。カタログ室と多くの新聞・雑誌は本館にあるが書籍の大部分は別館にあるため、何度か往復を強いられるだろう。どちらにあるかはカタログ番号から判別可能で、係員に聞くと教えてくれる。両館は地下鉄1駅分離れており、ティムール広場を歩いて歩くと20分くらいの距離である。

どちらの図書館も閉架式なので、カタログで目的のものが見つかったら受付で購入した請求用紙（1枚3-10スム）に書誌を記入して閲覧係に渡す必要がある。早い時は30分ほどで探してくれるが、時間帯によっては翌日来るように言われることも多い。アカデミー中央図書館の1階にはコピー室があり、コピーが可能である（1枚25スム）。ナヴォイ図書館にも両館ともにコピー室が常備されている（1枚40スム）。機械の調子が悪い場合もあるが、コピーを取るためだと言うと閲覧係によってはパスポートと引き換えに数時間の館外持ち出しを許可してもらえる時がある。

ナヴォイ図書館の本館2階には希少本室（Нодир китоблар）がある。ここを利用するには所属先の紹介状が必要である。私の知る限り、ここには19世紀末から20世紀初頭の新聞・雑誌や書籍が多数保存されている。また、1917年以前の中央アジアの民族・文化・地理に関する資料を集めた『Туркестанский сборник』（全594巻）、トルキスタンの風俗習慣に関する1200以上の写真を含む『Туркестанский альбом』（全10巻）、1581年にイワン・フォードロフによってロシアのオストログで発行された『オストログ版聖書』などもここにある。希少本室のコピー代は本によって1枚200スムから500スム

とかなり高い（デジタルカメラでの撮影は1枚500スム）。ただ、希少本室にあるものと同じものが本館や別館で通常本扱いされていることもある。

目的のものをせっかく見つけても、紛失していたり落丁・欠号になっている場合がある。どちらの図書館でも見つからない時は、チョルスーバザール敷地内のトゥラン図書館、もしくはナヴォイー通り沿いにある文化省の2階右端にある国立図書館で探すといだろう。トゥラン図書館はタシュケント州立図書館の筆頭図書館である。書籍に関しては1960年代以前のはほとんどないが、新聞・雑誌はかなり古いものまでである。一方、図書館には1915年以降のタシュケントおよびその後のウズベキスタン内で出版された印刷物が全て保存されているはずである。しかし独立後のものについては多くの私設印刷所ができたため、全てのものは集めきれていないようである。ここは図書館ではないので所属先の紹介状は必ずしも必要ではないが、利用するためには身分を証明できるものを何か提示しなくてはならない。コピー代は1枚につき1000スムから2000スム必要である。

19世紀以前の古文書は、アカデミー中央図書館の横にあるアカデミー東洋学研究所の図書室に多数保存されている（タシュケント国立東洋学大学と名称は似ているが、両者は別の組織である）。ここにはイブン・シーナーの著作の原本等、貴重な文献が多数ある。ここを利用するには他の図書館同様に所属先の紹介状の提出が必要であり、さらに図書室の維持費という名目で年間50ドルの閲覧料が要求される。カタログ室の利用は自由なので、目的のものが見つかったから閲覧料を払うようにした方がいいだろう。また、地下鉄パフタコール駅近くのナヴォイー文学博物館内には作家・詩人公文書館があり、この古文書室には13世紀から20世紀にかけての古文書が700点、またリトグラフも800点ほどある。

遺漏も多々あると思うが、これらの情報が何かのお役に立てば幸いである。この他、タシュケントには各種大学および研究機関付属図書館、市立図書館、子ども図書館などがある。ここでは紹介できなかったが、その中でも旧タシュケント国立大学（現Миллий Университет）付属図書館は規模が大きい。

市内の古本屋などで書籍を求めると、どこかの図書館の登録番号らしい数字が書いてあることがある。図書館の本の一部は流通ルートに乗ってしまっているらしく、カタログで見つけても実際には書庫で所在不明や紛失扱いになってしまっていることが少なくないのは残念である。

国立中央公文書館 (ЎзР Марказий давлат архиви)

Чиланзор кўчаси, 2

電話 77-0668

8:00-16:00 土日休館

アカデミー中央図書館 (ЎзР ФА Асосий кутубхонаси)

Муминов кўчаси, 13

電話 162-7408/7456

8:00-17:00 土日、毎月最終金曜日休館

ナヴォイー図書館 (А. Навоий номидаги Ўз. Миллий кутубхонаси)

本館 Хорезм кўчаси, 51

電話 139-1658/4709

別館 Сулейманов кўчаси, 33

電話 133-0547, 132-0619

別館 (工学関係) Шараф Рашидов кўчаси, 16

電話 139-4292

トゥラン図書館 (Тошкент вилоят «Турон» илмий универсал кутубхонаси)

Махсидўслик кўчаси, 25

電話 40-4997

9:00-18:00 日、毎月最終日休館

国立図書館 (Ўз. Миллий китоб палатаси)

Навоий кўчаси, 30

電話 144-6451

作家・詩人公文書館 (Ўз. ёзувчилари ва шоирлари архиви)

Навоий кўчаси, 69 / А. Навоий номидаги Адабиёт Музеи

電話 41-0275

(東北大学大学院国際文化研究科博士課程)